



勉強会・マンセル表色系のデジタル化

カラーデザイン研究会の2022秋の勉強会の案内が、日本色彩学会メールニュースNo.340で流されましたので紹介します。

「カラーデザイン研究会（主査：酒井英樹）は、マンセル表色系をテーマに、勉強会を開催します。

オンラインで色のやりとりをする機会が増えましたが、顕色系であるマンセル表色系は、デジタル環境との相性がよくありません。そこで、HV/Cで表記されるマンセル色票を、どうすればパソコン画面上に表示（デジタル化）できるか、その理論の紹介と、実際の作業手順を実習します。」という内容です。

◆酒井英樹、「マンセル色票をパソコン画面上に表示するには？」日本色彩学会誌 Vol.37, No.4, pp.394-399, 2013 で内容です。

◆日時：2022年10月15日(土)13:00 開始（～15:00頃までの予定）

◆場所：オンライン開催（Zoom会議）

◆対象：カラーデザイン研究会会員、日本色彩学会会員定員：80名（参加費無料）。

◆申込先：次のリンク先から、なるべく早くお申し込みください（10月8日締切）。

<https://forms.gle/2dfqFixfWGLGzj117>
（学会メールニュース No.340 から引用）

● 季語集の中の色名ー 11

● 初冬の季語

朱欒（ざぼん）：暖地で栽培される柑橘類の果物で、大きく外側は黄色いが、内部が紅紫色のものもある。（うちむらさき）

金柑（きんかん）：五、六分位の小粒の柑橘、実はすっぱいが、皮の方がうまい。

● 中冬の季語

青木の実（あおきのみ）：葉がくれに実る青木の実は真紅で、あでやかな艶がある。

● 新年の季語

初茜（はつあかね）：元日の東の空の暁紅を言う。（初茜空）

裏白（うらじろ）：正月の飾に用ひる齒朶を言う。齒朶は裏が白いので此の名がある。

● 厳冬の季語

厳冬の項には色名を伴う熟語が見当たらなかった。

昭和30年に編纂された季語集であり、江戸時代の伝統や自然のあり方、農作業の形などが令和の時代との相違はありながら、伝統的な文学の要素が伝わってくる。俳句の歳時記とも言える季語集から言葉を学び、色を学ぶことの楽しさを感じとって欲しい。改めて俳句の季語は色彩的であるという実感を受け取ることができた。（永田泰弘）

● 金色夜叉の色名ー 4

「金色夜叉」の中には、色に関わる文章中で、色彩教材として記憶に残したい文言がある。

1) 女性の着物、装身具、持ち物では、◇肉色縮緬の羽織、◇紫紺鹽瀬、◇煙管は黄金、◇紺の絹精縷の被風、◇貴族鼠のしぼ高縮緬の五紋なる単衣、◇納戸小紋の縮緬の羽織、◇黒綾の吾妻コオト、◇紋羽二重の肉色鹿子、◇濃小豆の更紗縮緬、◇茶微塵の御召縮緬の被風、◇薄色魚子の羽織。

2) 男性の着物、装身具、持ち物では、◇黒鹽瀬の羽織、◇茶柳條の仙臺平の袴、◇黒紬の紋付の羽織、◇藍千筋の秩父銘撰の袴、◇焦茶地の縞羅紗の二重外套。

3) 人物の肌の色や髪や鬚や化粧などでは、◇赭禿げたる、◇顔を赭めて、◇面を紅めて、◇面は薄紅に、◇顔の色は赤き方、◇蒼く濁れる頬、◇顔色が眞蒼で、◇素顔の色蒼き、◇烏羽玉、◇青息、◇茶褐色の髪の頭、◇赤き髭。

4) 自然描写の場合では、◇微白き海、◇汀も淡白き、◇藍の如き空、◇唐松の翠、◇乾坤の白きに、◇日色黄に濁りて、◇空は瑠璃色に夕榮えて、◇夜は水の如く白みて、◇千條の緑、◇前山の翠。

5) その他の色の表現の場合は、後の号で、紹介していきたい。（続く）（永田泰弘）